

インターバンクの声（2015年8月18日）

昨日、お盆休みも明けて、いよいよ通常態勢の再開と意気込んで始まった東京市場だったが、朝方に発表された第2・四半期 GDP 速報値の発表に注目が集まったものの、東京市場は終日にわたって静かな値動きが続いた。さらに海外市場は、引き続き休暇中の市場参加者が多いためか、米経済指標発表後にその都度反応があったが、依然としてレンジの外に飛び出すような力強さは感じられない。よほど市場予想からかけ離れない結果でなければ反応する機会の少ない米 NY ニューヨーク連銀景況指数だが、昨夜はそのかけ離れた結果となってしまうドル売りが見られたが、対円での反応が目立つ程度に留まった。むしろ影響を強めに受けたのは株式市場で、独 DAX やニューヨーク・ダウの序盤に売りが先行した。普段であれば余り神経質になることもない指標にも反応していることから、為替市場も株式市場にも相場の厚みがないようだ。今週末あたりまでは、指標発表毎に思い掛けない反応で無用なやられを蒙ることのないように気を付ける必要があるようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。